令和２年度第４回生物多様性保全検討部会

【　摘　　録　】

日　時：令和３年３月１日　午前１０時３０分～正午

場　所：京都市役所分庁舎４階　第４会議室

出席者：①足立直樹委員，②石原正恵委員，③板倉豊委員，④落合雪野委員，⑤田中正之委員，
⑥久山喜久雄委員，⑦伏見康司委員，⑧森本幸裕委員，⑨湯本貴和部会長

議　題：「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」（案）について

⑴　市民意見募集結果を踏まえたプラン案について（報告）

⑵　次期プランに基づく令和３年度以降の取組について

＜開会＞

議題⑴　市民意見募集結果を踏まえたプラン案について（報告）

議題⑵　次期プランに基づく令和３年度以降の取組について

事　務　局　**〈資料１，２，３に基づき説明〉**

落 合 委 員　資料３の２ページの「プランが目指す方向性」に，「「知る」から「行動」へ」とあるが，「知る」と「行動」という言葉のバランスが悪いと感じた。「「知る」から「行動する」へ」の方が良いのではないか。

森 本 委 員　プランは立派なものになっていると思う。問題は，今後，どのように進めていくかである。推進プロジェクトについて，毎年，進捗管理を行っていくと思うが，まとまった総括として，５年くらいで中間評価が必要ではないか。また，農業・林業・防災等において，生物多様性に配慮すると記載されているが，実際どうやっていくのか，ということが問題である。

湯本部会長　推進プロジェクトについては，市民の方からの関心も高いことがパブリックコメントからも分かる。実際何をやっていくのか，というところに対して関心が高く，期待も大きい。そこで，各推進プロジェクトについて，進行管理を行っていただく委員を担当に付けて，アドバイザー，コーディネーターの役割をお願いしたいと考えている。

森 本 委 員　良いことだと思うが，推進プロジェクトについては，市民の側から予定していないことが起こる仕組み，市民からの提案を受け入れるシステムが必要ではないか。事務局だけではできないこともある。

足 立 委 員　１０年間のプランなので，慎重に，かつ適切に進めていく必要がある。プランの３章までの完成度は高いと思うが，推進プロジェクトは内容が荒いと感じている。推進プロジェクトは，どういったプロセスで進めていくかが重要である。推進プロジェクトを進める原則として，「科学的」を重視することが必要である。つまり，現状把握をして，それに基づく計画を立て，実証し，レビューをするというサイクルを繰り返し行うということを明記する必要がある。加えて，京都の場合は，「科学的」なことだけでなく，「文化的」な側面が非常に重要であると考える。京都らしさや京都の文化を重視する必要がある。この二つの原則に基づいて，数値目標はど

うなのかと見た場合，まだ少し定性的だと感じる。２０３０年までに何とかしないと間に合わないという中で，やはり数値目標は必要ではないか。また，湯本部会長がおっしゃっていた，推進プロジェクトに部会委員を付けるという提案は大賛成である。

湯本部会長　足立委員の御意見を踏まえ，推進プロジェクトについて，実践して見直す，という記載をしていただければと思う。数値目標や評価方法については，ここで終わりではなく，この部会で引き続き，議論していきたいと考えている。

石原委員　２ページ「「生物多様性の持続可能な利用」の重点化」について，「狩猟者の減少・高齢化に伴うシカの食害の増加」とあるが，シカの食害の増加の原因はそれ以外もあると考えられるため，高齢化の後ろに「等」を加えるべきである。また，プランの進め方について，京都は大学のまちであり，大学と連携して進めていくことがやりやすいのではないか。今，問題解決に当たっては「超学際」ということが言われており，行政・大学が独自で計画するのではなく，計画段階から様々なステークホルダーを巻き込んで問題の解決に向けた検討を行うべきである。

久山委員　多くの方からの御意見をいただいており，生物多様性への関心の高さを感じる。９ページ「2.4 京都市の自然環境の特徴」について，「鳥」という記載は「野鳥」とすべきである。１３ページ「2.6(5)プラスチックごみによる生態系への影響」について，プラスチックごみの人の健康への影響についても記載してはどうか。２２ページ「重点保全地域における保全強化」について，深泥池や八丁平，大原野森林公園の例示があるが，京都市の大半を占める山間地にも目を向けていることが分かるような記載とした方が良いのではないか。例えば，「森林地帯，山間地についても，深泥池等に準ずるものは重点保全地域の対象とする」というような記載を加えてはどうか。２３ページ「外来生物対策」について，ヒアリは既に国内に存在するため，「ヒアリ等の新たな特定外来生物」の「新たな」は不要ではないか。情報収集や調査を行い，対策を行うといった記載にしないと市民には響かないのではないか。また，外来生物に関する呼び掛けとして，京都市の環境部局と保健部局のホームページの表記に温度差がある。保健部局では駆除を呼び掛けているが，環境部局では市民による情報を収集しており，庁内で方向性を擦り合わせた方が良いのではないか。２５ページ「自然とのふれあいや学習の機会の充実」について，一段落目に自然観察会，二段落目に環境学習の推進があり，違いが分かりにくい。例えば，二段落目について，「子どもから大人までライフステージに応じた環境学習・教育の推進」としてはどうか。

湯本部会長　今後，生物多様性条約の目標において，間違いなく保護地域の拡大は入ってくると思う。保護地域の拡大も視野においた記載が必要ではないか。

伏見委員　パブリックコメントの結果を見て思ったのが，想定していたより若い世代からパブリックコメントが多くあったことが印象的であった。推進プロジェクトや評価方法について，市民意見募集の意見を出された方にフィードバックできると良いと思った。重点保全地域の評価については，指標で当該地域の増減を確認できれば良いと感じた。また，目標設定については，推進プロジェクトと連動させて暫定的に検討

していくのが良いのではないか。

板倉委員　湯本部会長がおっしゃった各推進プロジェクトに担当の委員を付けるという案は積極的で良いと思う。エコツーリズムについても，誰かが動かないと始まらない。環境政策局が産業観光局を通じて観光協会と連携して進めていく必要がある。また，京都府のイベントで，環境に関する展示会を行っている。今回は，コロナの影響で生きものの紹介を動画で行うこととなったが，意外と反響が大きかった。今後は，発信媒体も検討する必要がある。

田中委員　プランの内容については，全く異論はない。プランでは，動物園を学びの拠点としてもらっている。動物園でも学びの機会を作っていきたい。パブリックコメントでの市民の関心の高さに驚いている。興味のある人はもっといると思うので，そういう人をどうやってつなげるかを考えていかなければならない。例えば,「私たちにできること」を記載しているが，これらの行動について「やります」と宣言してもらい，それに対して「やりました」と評価できる仕組みを作れば，やる気が出るのではないか。また，推進プロジェクトについて，大学コンソーシアムを使って，大学生に知恵を出してもらうこともできるのではないか。プランを広めるには，生物多様性をどう伝えるかが大事である。今後，ＳＮＳやホームページ等で工夫していくべきである。

湯本部会長　各推進プロジェクトに担当の委員を付けることについて,「恵み豊かな森づくりプロジェクト」は石原委員,「食と農業プロジェクト」は私と落合委員,「水と緑のネットワーク形成プロジェクト」は森本委員,「「京都らしさ」を支える生きものプロジェクト」は足立委員にお願いしたいと考えている。

足立委員　ＣＯＰ１５は再延期されそうである。１月にフランスにおいて，マクロン大統領主導で実施された会議において，２０３０年までに陸域水域の３０％を保護区にするということについて，小泉大臣も賛同した。その中で注目されているのがＯＥＣＭの考え方で，保護地域以外の所でどう生物多様性を守るかという視点であり，ちょっとした緑でも保護区として認めるものである。この考え方は京都において使えると思う。街路樹の連続性や雨庭等が保護区としてカウントできるようになる。また，気候変動への対応に緑を活用するという考え方も国際的には広がりつつある。将来的に国際的動向とも合致するようなプランとしておくべきである。

落合委員　推進プロジェクト「「京都らしさ」を支える生きものプロジェクト」に関連して，文化庁において，伝統工芸に関する道具や用具が不足していることから，それを持続可能にしていこうとする動きが顕在化している。こうした動向も押さえておく必要がある。

事務局　委員の皆様においては，プラン策定に向け，諮問から長期間熱心に議論いただき，感謝申し上げる。今後も引き続き，アドバイスやご協力など，よろしくお願いしたい。プランについては，資料３を基に年度内に策定する。本日のご意見のプランへの反映については，湯本部会長とご相談のうえ決定させていただく。